

### 2月1日(土) 婦人会主催の新年会にて



発行にあたり  
新型コロナウイルスの影響により、ご法座やご法事の中  
止が増え、致し方ない事です  
が、ご門徒の皆さんと接する  
機会が、徐々に少なくなつて

## 常高寺の寺報を作りました

常高寺だより

# あまね



発行年月日  
2020年5月11日  
発行所 常高寺  
今高市風平町4-1-13  
TEL 0898-22-2264

いる様に感じます。この度、  
少しでもお寺と皆さんとのご  
縁を繋げたいと思ひ、常高寺  
の寺報誌「あまね」を作成し  
ました。構成内容や発行の頻  
度は思案中。今後の課題です。

**寺報名の由来**  
「普く(あまねく)」という  
言葉から頂きました。意味は  
「全てに広く行き渡ること」  
です。阿弥陀さまの広く全て  
の人を救い取らんとするはた  
らきを表す言葉として、お経  
中に良く用いられています。  
今日の様な状況下に於いて、  
少しでも皆さんにみ教えが届  
きます様にと願いを込めて、  
採用させていただきました。  
余談ですが、私の長女の名前  
もここから付けています。

**漫画 ブッダから親鸞へ**

加藤泰憲作品集  
響流書房

「響流書房 加藤泰憲」  
で検索！

継職法要の際、編纂しお配りした、前任  
職 加藤泰憲の仏教漫画集。電子書籍に  
て好評発売中です。「阿闍世」「釈迦十  
大弟子断片」など、多数の作品を収録。

**常高寺公式キャラクター紹介**

名前 前象 (かとうきくぞう)  
誕生日 11月18日  
出身地 常高寺  
趣味 くるま、寝談、おみじと  
話す、寝談、おみじと  
たのしみ、おみじと  
愛用グッズ 飲み物、おみじと  
好きな食べ物 牛乳、おみじと  
好きな言葉 MOTTAINAI

くま、寝談、おみじと  
寝談、おみじと  
おみじと  
おみじと

**目次**

2頁	仏教学基本講座
3頁	ゲスト法話
4頁	行事報告①
5頁	行事報告②
6頁	質問コーナー
7頁	本願寺の声明文
8頁	おしらせ

今月の掲示板のことば

**「自分の命も 周囲の命も かけがいのない大切な命」**

重版して紙面サイズを  
大きくしたパウ!

仏教学  
講座

## 住職さんに聞くゾウ! (第一話)

「お経ってなんだろう?」



「むむむ、お経って難しいゾウ。。何の意味があるんだろう。」



「いい質問だね。確かにお経は古い漢文のものばかりだから、よく分からないって人も多いだろうね。」



「そうなんだよ?お葬式やご法事で読まれているよね。亡くなった人の為の呪文みたいなものなのかな?」「『良いところに往きますように』みたいな。」



「なるほど。そう考える人もいるかもしれないね。少しお話ししようか。お経は本来、インドのお釈迦さまという方が2500年程前に説かれた教えを元になっているんだ。」



「ぞぞぞう!? (※「ええええええ」みたいなもの)」「今も残ってるなんてすごいゾウ!」



「それだけ色んな時代、色んな立場の人に通じる問題が説かれていって事だろうね。その教えがお弟子さんたちによつてまとめられ、後に中国にわたり漢訳されるんだ。当時お経を訳したお坊さんは沢山いるけど、三蔵法師玄奘は特に有名だよ。西遊記で。」



「夏目雅子さんだ!」「きれいだったゾウ!」



「最近だと深津絵里さんも演じていたね。きくぞう君って何歳なの(笑)」「そうやって中国を通り日本に届けられたものが、今私たちがよんでいるお経なんだ。」



「だからお経は漢文なんだね。でもお弟子さん達がまとめたって事はお坊さんのための教えって事?やっぱり難しいぞうだゾウ。。」

## 人物紹介

當磨寺の新米住職  
趣味はバルーンアート。きくぞうくん 當磨寺の空式キヤク  
タ。趣味は法話を聞くこと。たまに寝てしまう。

「フフフ。だいじようぶ。お釈迦さまは勿論お弟子さんたちにも教えを説かれたけど、一般の人々、今で言うご門徒さんにも教えを説いていたんだ。」



「修行しているお弟子さんだけでなく、一般の人にも?」「みんな難しいって思わなかったの?」



「そうだね。確かに当時お弟子さんたちに説かれていた教えは、一般の人たちには難しかったかもしれない。そこでお釈迦さまは考えられたんだ。『対機説法』っていうんだけどね。『機』はお経の言葉で人のこと。お釈迦さまは、聞く人の素質や能力によって、それぞれに理解しやすい方法でお経を説かれたんだ。この方法は、お医者さんが患者さんの病にに応じてお薬を与える事とよく似てるから『応病与薬』とも言われているよ。」



「なるほど!。。。んん?でもそれだと、たくさんのお経が出てきちゃうゾウ?」



「いいことに気付いたね。そう!このお釈迦さまの法を説く姿勢が、仏教に沢山のお経があり多くの宗派が存在している大きな要因の一つになっていると思うんだ。この点(聖典が多数ある点)は他の世界宗教のキリスト教(聖書)やイスラム教(コーラン)とは大きく違うよね。その教えの数は、なんと!!八万四千の法門とも伝えられているよ。そして重要なのは、その全てが、私たちが『仏に成る事』を目的とした教えという事なんだ。ここでの『仏に成る』っていうのは。。。んん?」



「8万4000!!想像しただけで。。。気が遠く。。。なるゾウ。。(かくつ) Zzz」



「今日はこれくらいにしとこうか(笑)」

次回 第二話「仏に成るってなんだろう?」に続く。。。



ゲスト  
話能美顕之住職（島根県 浄光寺）  
「俳句のこころ」

「三瓶野の風の一部となる晩夏」

俳人であった祖父（平成十四年往生）の愛した三瓶山（島根県大田市）での俳句大会に、毎年参加しています。冒頭の句は昨年参加した際に詠んだ拙句。晴天の下、広大な野に佇んでいまずと、大空から一陣の風が舞いおりて来ました。大空も、広大な野も、包みこんでいくような風に、ふと自分の小ささを感じ、そして祖父の句を思い出していました。祖父がそばに来るといつもそこにあつた句い、お香の句い。晩夏の涼風に祖父がいるように感じていました。

俳句というものは、難しいものではありません。日本語で季節の言葉を入れて17文字を作ることが出来れば、それは立派な俳句です。紙と鉛筆があれば、他に何も要りません。季節の移り変わりで中で感じることを17文字で表現していく。季節の一短い日記のようなものだと私は理解しています。「花鳥諷詠」という言葉があります。日本一長く続いている月刊誌「ホトトギス」（現在1480号。夏目漱石も俳人であり、吾輩は猫であるはホトトギスにて連載）の基本理念であり、高浜虚子によって提唱されたものです。「春夏秋冬四時の移り変わりによって起こる天然界の現象、並びにそれに伴う人事界の現象を諷詠する文学」と虚子は論じています。少し難しい言葉に思えますが、私はこの論が俳句の真髄であり、魅力であると思っています。つまり、論の順番をみると先ず、自然の現象が思っているに伴うものとして、人間の生活があるように、世界は人間中心ではなく、むしろ人間は自然の中の一部であるということを学んでいくのが俳句という文学である。そこに私は非常に感動します。松尾芭蕉は「風雅におけるもの造化にいたがいて四時を友とす」といいました。春夏秋冬はただの風景ではなく、いつも私のそばにいる友達なんだという言葉に何とも言えないあたかかさを感じます。

俳句は決して高尚なものでも、自分を高めるものでもありません。むしろ、自然の中での自分の愚かさ、小ささを詠んでいくものと考えます。自分を利するのではなく、自分を捨てていく文学と考えます。そして人間にも幼年期、青年期、壮年期、老年期といのちの移り変わりがあります。そのいのちの四季をいつも変わらないサイクルで見守っている季節のあたかさを感じていくこと、それは人生という時間が豊かになると私は信じています。

先日、ある研修会にてこんな言葉に出会いました

「お念仏は阿弥陀様の声が聞こえてくるのです」

お念仏は阿弥陀様の「あなたが大切だ」という声私ののちに響く音です。それが私が聞こうとする前に、聞こえてくるのです。私が聞いていない時も「あなたが大切だ」という声はあなたのそばにずっとあるのです、それがいつしか聞こえてくる、それがお念仏なのです、という先生の言葉を本当に有難く思いました。そして「俳句は仏教だ」とたまらなく嬉しくなりました。俳句を詠むということはいつもある自然の音が、いつしか私に聞こえてくるのです。「いつもあなたのそばにいる」と聞こえてくるのです。

いつもそばにある自然の優しい声に、一緒に耳を澄ましてみませんか。



## 講師紹介

島根県江津市 飛龍山 浄光寺の住職。常高寺住職の実兄。「ホトトギス」同人。日本伝統俳句協会にて新人賞を受賞するなど、俳人としての顔も持つ。本願寺新報に、連載記事「季語を味わう」を掲載中。

※五月の降誕会法要の講師の予定でしたが、新型コロナウイルスの影響を鑑み中止。代案として今回の寺報への寄稿を依頼したところ、快く了承していただきました。



# 令和2年1月14日～15日 御正忌報恩講法座


親鸞聖人のご命日をご縁とした御正忌報恩講。ご講師は弘中英正先生。お寒い中のお参り、本当にありがとうございました。仏婦の皆さんのお手製の精進料理、とても美味しかったです。ご馳走様でした。

※がんもどきは拳くらいの大きさ。食べ応えがありました。




**きくぞう君を探せ！**


誌面のどこかに次のきくぞう君がいるよ！




パイパイきくぞう君



なんまんだぶきくぞう君



ITきくぞう君



まっ白に燃えつきそうなきくぞう君



# 令和2年2月1日 新年会&のみの市

仏教婦人会主催の新年会。皆で正信偈をお勤めした後、のみの市、お食事、カラオケやくじ引き等のレクリエーションという流れ。節分が近かったので、私もバルーンで一作品。仮装は坊守（我が家の鬼嫁）です。

※3月の彼岸会法座、4月の永代経法座は新型コロナウイルスの影響を鑑み中止し、当日は寺族のみでお勤めをさせていただきました。



うれしいゾウ!!



ピツワアツプ

婦人会の黒川ヒサ子さんと高井ヒロ子さんで作って下さった「きくぞうくん」オリジナルリテイー溢れる素晴らしい出来栄!





寺  
Q&A

## よくある質問コーナー

※このコーナーではお寺によく問い合わせのある質問を取り上げ、お答えさせていただきます。

## 質問

「お布施はいくら包んだらいいんでしょうか？」

## 答え

大変多い質問です。いつも次の様にお答えしています。「お気持ちでお願ひします」。よく失礼の無い様にしたたいと仰っていただきます。大変ありがたいお心遣いです。正直、私も皆さんと同じ立場なら同じ事を聞くと思いますが(笑)、お気持ちで大丈夫です。金額の多寡でご法務を差別化する事もありません。お布施とは本来、単なる僧侶のお礼ではなく、仏さまに感謝の心でお供えするものとされます。執着を離れ自らのおものを他に分け与えていくという行為です。常高寺ではその伝統的意義のもと昔よりお布施をお受けしています。

但し、これはあくまで当山常高寺での回答となります。他のお寺では違う答え方をしているところも当然あります。ご門徒さんの立場から見れば、金額を決めてもらう方が助かるという意見がある事も分かります。またお寺の立場としても、護持費として一定の額を頂かないと難しい部分もあるかと思えます。常高寺としても将来的には金額を提示する必要性が出てくるかもしれません。出来る限りは、伝統的なお布施の習俗を維持したいと考え、現状ではこの様にお答えしています。※但し西本願寺への院号申請や、大谷本願への納骨等、別の施設、団体が関与する場合は、その施設が定める一定の額をご用意していただく必要があります。これらの金額については、個別にお寺までお問い合わせください。

## 質問

「お寺さんは普段どの様な一日を過ごしているんですか？」

## 答え

ずつと修行をしています。。。という事は勿論ありません(笑)。という事はまず朝起床して、寺の門を開けます。朝7時半に本堂にて朝の勤行を行います。三部経の一節やお勤め等を誦経します。終了後、所屬している僧侶)とその日のお参り予定を確認をします。その後朝食を取ります。皆さんのご家庭と変わらない普通の朝食です。住職は朝はご飯の事が多いですが、パンも好きです。

法務は葬儀、お通夜、年忌参り等を中心にお参りします。夏には新盆のお参りもあります。法務のない時間は、本堂や境内の清掃、電話の応対や訪問者の対応等の事務仕事をしていきます。この時間にお寺の年間行事であるご法要等(盆法要やお彼岸法要等)の案内作成や、次の日の法務先の確認作業・準備等をしていきます。昔はご門徒さんの情報を手書きで管理していましたが、現在は門徒情報、過去帳情報、会計情報全て、パソコンで管理しています。お参りより、この様な事務仕事の時間の方が、もしかしたら長いかもしれません(笑)。

その日の法務が終了しましたら、晩の勤行として、本堂で正信偈のお勤めをし、仏間で短いお勤めをします。その後の晩御飯・就寝の流れは皆さんと同様だと思います。以上のような事をお寺の者、皆で協力して行っております。



## バルーン住職コラム 第一回

常高寺住職です。日々自坊にて僧侶を勤めておりますが、ごく稀にバルーンパフォーマー「バルーン住職」として活動しています。コラム一作品目は「白象とお釈迦さま」です。お釈迦さまの誕生日を祝う、花祭りをイメージして作りました。ポイントはお釈迦さまの髪型。一歩間違えばお相撲さんです。うまく表現出来てるでしょうか(笑)。

※バルーンアートに興味がありましたら、お気軽にご連絡下さい。特に今は、外出出来ない子供達と共に遊ぶ良いきっかけがないかと思えます。「ナランハ」で検索すると風船専門店に繋がります。



新型コロナウイルス流行間における現在の状況を受け、西本願寺から正式に声明文が発表されましたので、原文のまま掲載します。

### 新型コロナウイルス感染症に関する「念仏者」としての声明

現在、新型コロナウイルス感染症は世界中に拡がり、収束する気配を見せていません。日本でも緊急事態宣言が発令されるなど、状況は新たな段階に入っています。

まず、このたびの新型コロナウイルス感染症によりお亡くなりになられた国内外の多くの方々に謹んで哀悼の意を表しますとともに、罹患されている皆さまに心よりお見舞い申しあげます。さらに、特に高い感染リスクにさらされながらも、懸命に治療・対策にあたられている医師、看護師をはじめとする医療従事者の方々に深く敬意と感謝を表します。

こうした危機的な状況において、世界中の人びとが共に力を合わせ、励まし合って対応しています。しかし、症状が出ないために感染に気づいていない人の行動が、感染拡大の一因となっている場合もあるのではないかと指摘されています。感染症の危険性や対処法を正しく理解し、実行するとともに、差別や偏見が拡がらないよう、一人ひとりがお互いを思いやり、注意深く行動していきたいと願っております。

釈尊(しゃくそん)が明らかにされた苦しみの根源である無明煩惱(むみょうぼんのう)、また親鸞聖人(しんらんしょうにん)が「煩惱具足(ぼんのうぐそく)の凡夫(ぼんぶ)」という言葉でお示しになった私たち人間の根本に潜む自己中心性に思いをいたし、このような時にこそ、人と喜びや悲しみを分かち合う生き方が大切ではないでしょうか。仏教には、「あらゆるものは因縁(いんねん)によりつながり合って存在しており、固定した実体はない」という「縁起(えんぎ)」の思想があります。新型コロナウイルスの感染拡大の原因は人との接触であるとされ、本来大切な人との「つながり」が、今は安心感ではなく、不安をもたらすものとなってしまっています。しかし、「つながり」を表面的に捉え、危険なものとする否定的に考えてはなりません。世界的な感染大流行という危機に直面する今だからこそ、私たちは仏教が説く「つながり」の本来的な意味とその大切さに気づいていく必要があります。

今重要なことは、仏智(ぶつち)に教え導かれ、仏さまの大きな慈悲(じひ)のはたらきの中、共に協力し合って生きる大切さをあらためて認識し、感染拡大をくい止めることです。緊急事態宣言がコロナ危機を克服してくれるものではありません。この困難を打開できるか否かは、多くの関係者のご尽力とともに、私たち一人ひとりの徹底した適切な行動にかかっています。

私という存在は、世界の人びととの「つながり」の中で生きているからこそ、やがて、共にこの苦難を乗り越えた時、世界中の人びとと喜びを分かち合えることでしょう。それぞれの立場において、この難局で法灯(ほうとう)や伝統を絶やさないために何ができるかを考え、「そのまま救いとる」とはたらいてくださるお念仏の心をいよいよいただき、共に支え合い、力を合わせるのです。誰もが安心して生活できる社会を取りもどすことができるよう、精いっぱいのおつとめを果たしてまいりましょう。

## おしらせ

## 今後の行事予定

七月二十二日(水) ～ 二十三日(木)  
 孟蘭盆会法座 平山義文先生

九月十六日(水) ～ 十七日(木)  
 秋季彼岸会 喜多唯信先生

九月二十二日(火) ～ 二十三日(水)  
 本願寺念仏奉仕団参拝

十月二十一日(水) ～ 二十二日(木)  
 秋季永代経 川上順之先生

十一月十五日(日)  
 報恩講法座 当山住職

十二月三十一日(木)  
 除夜の鐘

※状況をみて、開催の可否に関しましては、都度ご連絡致します。



## ユーチューブ法話紹介(お勧めです!)

自宅待機が推奨される中、布教師さんたちの間で動画サイト「YouTube」を介した法話の輪が広がっています。おすすめのものをご紹介します。

## ◇「しまなみ法話チャンネル8」で検索。

今治市大三島、万福寺の僧侶である浅野執持さんの法話チャンネルです。常高寺でも何度もご法話をさせていただいており、私も大変お世話になっております。常高寺の前住職の仏教漫画についても少し取り上げてくださっています。

※右のQRコードからでも入れます



## おしらせ

かねてよりお知らせしておりましたが、常高寺門徒会館の建設ですが、現状九月初めに解体工事を始め、十月初めより建築工事を開始する予定です。完成は来年の夏を予定しております。皆さんのご協力により建てられる施設です。完成した暁には是非お参りください。※状況により工事予定を変更する可能性があります。

・新型コロナウイルス感染症予防策として、常高寺では本堂の換気、座席間隔をあける、消毒用アルコールの常設、僧侶のマスクの着用等を実施しております。ご門徒の皆さまに於かれましても、ご法事等の際は、マスクの着用や手洗いの励行等、感染対策へのご協力をお願いいたします。

## 編集後記

先行きの見通せない状況の中、お寺としましても微力ながら何か出来る事はないかと模索しております。お寺としての本分は「み教えを伝える事」、そして「その環境を整える事」にあると思います。この寺報もその一助になればと願っております。ゆくゆくはご門徒さんの皆さんにも寄稿をお願いしたいと考えています。何かリクエストがございましたら、お寺の方までお気軽にご連絡ください。仏教に諸行無常とあるように、始まりがあるものには必ず終わりがあります。皆で助け合い日常を護りながら、また皆さんと笑顔でお会い出来る日を心待ちにしております。

常高寺住職 加藤大地